



JSQC ニュース

No.287

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 今年度で18年目を迎えた関西支部の活動紹介
- 2-私の提言 利益にも品質がある! 「利益の品質」を見える化するために
- 2-ルポルタージュ 第104回中部講演会ルポ
- 3-わが社の最新技術/6月・7月の入会者紹介
- 4-第332回事業所見学会ルポ/総会告知/行事案内/会費請求

今年度で18年目を迎えた関西支部の活動紹介

近畿大学理工学部、品質管理学会理事 岩崎 日出男

品質新時代に應えるべく関西支部は、関西地区の主要企業における品質・安全確保として品質管理情報基地の活動基盤構築に取り組んでいる。

関西支部では最も会員数が多いときで約600名、現在は、平成3年の支部発足時とほぼ同じ約500名の会員から組織されている。関西支部の組織は図1のように表される。支部長以下、総勢28名の役員と支部事務局2名の体制で支部会員へのサービスと各行事の運営を行っている。

第37年度の関西支部の各役員を表1に示す。2ヶ月に1回開催している全役員による「合同役員会」は、講演会、

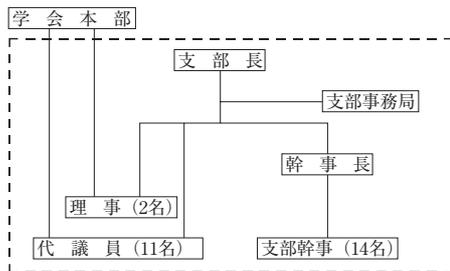


図1. 関西支部の組織

シンポジウム、研究発表会、事業所見学会、QCサロンの主要行事に対する計画内容の検討と実施結果のフォローや活動の方針を議論するなど支部全般についての重要議題を決定している。第37年度

の各行事計画とその実績を表2に示す。

主な行事実績としては、4月7日(月)に実施した第120回シンポジウム「製品経年劣化事故に対する消費者保護のあり方」は92名の参加者の中で、消費者、メーカー、行政、学識者からの多くの課題と解決策に対する有益な討論が行われた。また、5月9日(金)に実施した第103回講演会は、岡部氏(デンソー相談役)、永田氏(大阪ガス常務取締役)からメインテーマ「品質力・組織力向上に向けて(リーダーの役割)」をもとにご講演いただき、128名の参加者から活発な質疑がなされた。

9月19日(金)の研究発表会では、今年度から優秀発表賞を新設することによ

表1. 第37年度関西支部役員

支部長・理事	細谷					
幹事長・代議員	荒木					
理事	岩崎					
代議員	今里	貝瀬	黒木	重	櫻井	小橋(尾畑)
〃	鱈谷	野尻	橋本	松浦	三田	
幹事	荒川	泉井	猪原	北廣	今野	清水
〃	中尾	中島	松本	宮下	三宅	森
〃	森田	六反				
事務局	小林	岡田				

り多くの会員からの発表エントリーを促す結果となり、特別講演1件、研究発表10件、事例発表5件で実施された。

また、合同役員会開催後に、支部会員の誰もが自由に参加できる「QCサロン」を開催し、缶ビールとおつまみで話題提供者への質問や昨今のQC界のさまざまな話題に議論を咲かせ、会員間の親睦を深めている。

関西地域は、世界的大規模企業も数多くあるが、中堅・中小企業も多く、それぞれの特色のもとに世界中で活躍している企業が多い。これらの企業の国際競争力をさらに高めるために、関西支部が品質管理を通じて貢献していければ幸いと考えている。

表2. 関西支部第37年度事業計画

行事	担当 リーダー	第37年度											第38年度		
		H19 10月	11月	12月	H20 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
合同役員会	細谷・荒木	19日(金) 第1回		14日(金) 第2回		21日(木) 第3回		18日(金) 第4回		19日(木) 第5回		22日(金) 第6回		16日(木) 第1回	
講演会	小橋・尾畑								9日(金) 第103回						
シンポジウム	鱈谷						7日(月) 第120回							9日(火) 第122回	
研究発表会	黒木													第88回 19日(金)	
事業所見学会	猪原					第329回 29日(金) カルビー 湖南株			第331回 16日(金) 関西セキスイ 工業株		第334回 23日(水) 松下 電器産業株		第336回 2日(火) 関西電力株 南港発電所		
QCサロン	野尻	19日(金)		14日(金)		21日(木)		18日(金)		19日(木)		22日(金)		16日(木)	

● 私の提言 ●

利益にも品質がある！
「利益の品質」を見える化するために

積水化学工業株式会社 近藤 賢



昨今、食品偽装をはじめとして企業の不祥事が頻繁に報道されるようになった。このような報道に触れる度に、会員の皆様も私同様、非常に残念で悔しい思いをつのらせているのではないだろうか。何故、このような不祥事が最近になって多発するようになったのだろうか？企業の倫理意識の低下？いや、私はそうではないと信じたい。恐らく、このような問題は昔から企業の中に、少なからず潜在していたのではないか。それが、企業の社会的責任（CSR）という時代の求め

に従って、内部告発などの形で顕在化してきたと見るのが自然かもしれない。

それでは、問題の根本原因を絶つ為に私たちは何をなすべきなのだろうか。根本原因とは、言うまでもなく経営トップの「目先の利益（の大きさ）」優先という姿勢であることには、大きな反論はないと思う。

私はここで「利益の品質」という言葉声を大にして叫びたい。製品やサービスに品質があるのと同様、利益にも品質があるのだ。儲かりさえすれば何でもあり、ばれなければ良い……という様な「品質の悪い目先の利益」は、今や企業にとって命取りであり、決して追い求めるべきものではない。企業

の利益は正当で公正な事業活動のみによって生まれなければならない。

この様なことを考えているうちに、ひとつの大きな壁にぶつかってしまう。「利益の品質」とは、どの様にして測られるのか……という課題である。私自身、「利益の品質」を見える化する指標って一体何なんだ？というやっかいな課題にぶつかってしまった。

会員の皆様、いかがですか？皆様の会社では、何か「利益の品質」を測る指標をお持ちですか？もしお持ちであるなら、是非そのノウハウを広く公開して社会の為に役立てていただけませんか？仮に、もしその様な指標が存在しないなら、今こそJSQCが中心になって、有効な指標の研究を進めてみたらどうだろう。この様な取り組みは、きっと、21世紀型TQMの普及と展開に大いに貢献すると思うのだが、いかがだろうか。

第104回中部
講演会
ルポ『「Qの確保」につながる
品質のつくりこみと未然
防止の思考方法』

2008年5月28日(月)第104回講演会(中部支部第49回)が刈谷市のシャインズにて標記のテーマで行われました。初めて午前中からの講演にも関わらず、約200名の参加者を得て盛況となりました。

■講演1『これからのモノ創りへの想い』

関東自動車工業(株)取締役副社長 服部 哲夫 氏

自動車産業のグローバルな環境変化には、伝統と革新の“二律背反”へのチャレンジが求められます。また、“お客様本位性”の理念のもとでの、品質向上活動、開発～生産の各プロセスにおける仕組みづくりや取り組みを説明いただきました。実務からのわかりやすい説明をいただいたため、自社での活動に参考になるとの声を多くいただきました。



■講演2『失敗学と創造学』

東京大学大学院 特任教授 濱口 哲也 氏

未知のことへの挑戦、新しいものの創造には、失敗が避けて通れないものです。そこから得た知識をどのように学び伝えていくのか、多くの事例をもとに説明いただきました。失敗情報は知識にしなければ伝わらない。知識と組織も上に登らなければ水平展開できないなどキーワードを散りばめながらのお話で、今後の仕事に活かしたいとの意見を多くいただきました。

■講演3『品質・安全性の確保と未然防止』

電気通信大学 教授 鈴木 和幸 氏

生じた品質問題・トラブルは批判ではなく、いかにして未然防止を図るかが大事です。品質・安全の確保は現場活動に大きく依存している部分がありますが、本講演では品質問題・トラブル発生メカニズムから組織・システム・社会のアプローチの基本的考え方とシステム構築について説明いただきました。参加者からは新しい発見があったなど大変好評でした。

廣田 浩一(株)ジェイテクト

わが社の最新技術

高精度で信頼性の要求される 微小流量の測定とコントロールの実現に向けて

ブルックスインストルメント(株)
奥野 正博

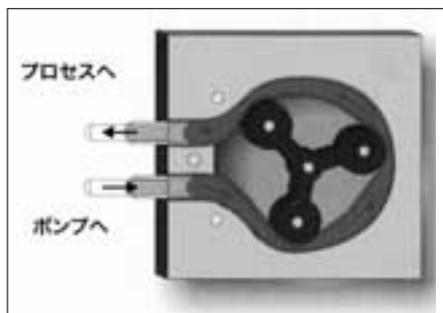
微小流量の制御を求めて

従来から少流量の計測や制御に使用されてきた技術には、ある程度の誤差を許容することが余儀なくされてきました。その結果、研究者やプロセスエンジニアは要求されている精度を実現するため与えられた状況・条件下で解決方法を模索してきました。

弊社の開発した小型コリオリ流量計、流量コントローラ“QUANTIM”は液体の性質や状態に関わらず、質量流量の計測や制御を直接に行うことができます。

ポンプによる計測

多くの場合、プロセス実験で使用される流体は“体積”よりも“質量”で計測されることが重要です。しかし、ポンプに

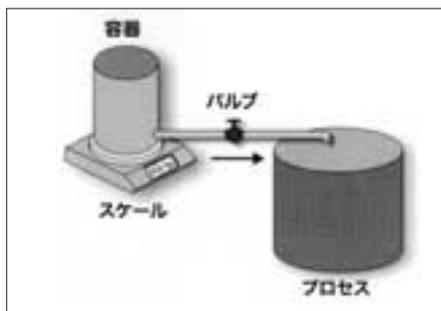


チュービングポンプ

よる計測は“体積流量”であり“質量流量”ではありません。又、ポンプはメカニカルな部品があるためメンテナンスが要求され、コスト高の要因になります。

はかりによる計測

質量流量の正確さを追求するため“はかり”が利用されることがあります。

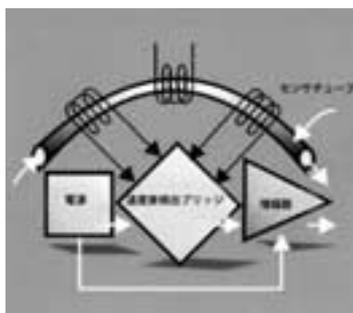


はかり

精密な質量測定をおこなうためには、気流、温度変化、振動など測定に影響を及ぼす環境からはかりを隔離しなければなりません。そのため取り扱いがとて面倒になります。

サーマルマスフローによる計測

サーマルマスフローは長年精密な流量の計測制御に使われてきました。サーマルマスフローは、間接測定法でありプロセス変化に対してはその正確さにブレが生じる可能性があります。又、流体



サーマルマスフロー

の種類、温度、密度、圧力、及びレシピの変化によって、その精度は低下します。

コリオリ式流量計

先に述べた問題を解決するのが、コリオリテクノロジーを用いた流量計“QUANTIM”です。コリオリ式流量計の特徴は次の通りです。

- ① 質量流量を高精度に計測することが可能
- ② 密度計測が可能
- ③ 測定可能な液体の範囲が広い
- ④ メンテナンスがしやすい



QMBC IPモデル

“QUANTIM”の優れた汎用性は

- ① 化学触媒の研究
 - ② 精密コーティング
 - ③ 化学物質の注入／添加システム
 - ④ 真空薄膜コーティング
 - ⑤ 定量ポンプの制御
 - ⑥ 基準器
 - ⑦ 高圧ガスの高精度計測や制御
- など、広く産業界で活用されています。

品質管理の上で、特に正確な流量制御、又、高精度な質量流量の計測が要求される場合、“QUANTIM”を導入する事により、その能力は最大限に発揮され大きな改善に寄与できるものと考えております。

2008年6月の入会者紹介

2008年6月17日の資格審査において、下記の通り正会員10名、準会員9名の入会が承認されました。

(正会員10名) ○東出 政信(NECエレクトロニクス) ○井本 明夫(IMT調査事務所) ○岩根 茂樹(関西電力) ○藤田 光伸(自研センター) ○住本 守(製品評価技術基盤機構) ○皆川 昭一(クラリオン) ○山本 正和(プラザー工業) ○木下 潔・水野 隆文・辻内 好夫(東海理化)

(準会員9名) ○福田 治久(京都大学) ○中山 雄太・川江 祐介・伊東 佳裕(武蔵工業大学) ○佐藤 仁人・高橋 裕嗣・牛島 幸子・梶原 千里・西中 萌(早稲田大学)

2008年7月の入会者紹介

2008年7月16日の理事会において、下記の通り正会員8名、準会員5名、賛助会員1社の入会が承認されました。

(正会員10名) ○脇坂 陽子(NTTラーニングシステムズ) ○青野 洋己(住友建機製造) ○落知 真人(水島工業) ○岡

田 誠一(村田製作所) ○尾畑 義雄(関西電力) ○粕淵 清孝(大日本スクリーン製造) ○重 紀義(ダイキン工業) ○山口 伸治(JUKI)

(準会員5名) ○篠宮 貴紀・高山 陽平・伊藤 大裕・陳 如(早稲田大学) ○佐野 みどり(玉川大学)

(賛助会員1社1口) ○東海理化

正会員2828名
準会員87名
賛助会員178社205口
公共会員23口

第332回 事業所見学会 ルポ

(株)ブリヂストン 東京工場

学部の学生にボルトの作り方を質問すると、十中八九の学生は金型に溶かした鉄を注ぐと答える。思わず苦笑してしまうが、タイヤの作り方となると自身が何も知らないことに気づいた。よい機会であったので、事業所見学会に参加させていただいた。

タイヤの製造工程を見学し、何とんでも驚いた。リングにタイヤの部材である様々なシートを巻きつけ、膨らませてポン！生タイヤの出来上がり。続いて加硫工程で待つこと15分、湯気が立ち上るホカホカのタイヤが出来上がり！まるで魔法を見ているようであった。

素人が解説するほど簡単ではないのは承知している。どれだけノウハウが裏に隠れているのかは計り知れ

ない。たとえば部材を張り付ける位置がばらつくと、完成品としてのタイヤの特性も大きく変わってくるのであろう。部材一つをとっても、ゴムと添加物の配合比が重要なはずである。私などでは説明できないほどのノウハウが凝縮されているのであろう。

工場見学終了後には会社で進められているAQS21活動（Action Quality Spiral-up The 21st century）についてのお話を聞かせていただいた。守るべき標準が守れないことの課題と改善活動による新たな標準作り等を含んでいるという。昨年の品質月間でも取り上げられていたSDCAとPDCAのサイクルを意味すると解釈した。グローバルベストを目指す企業でのTQM活動は原点にある思想を大切にしつつ、質の向上に対して絶え間ない挑戦をし続けていることが大変参考となった。

学生にタイヤの作り方を質問した際に、どのような答えを返してくるかが楽しみである。

永井 一志(玉川大学)

第38回通常総会開催

(社)日本品質管理学会第38回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：平成20年11月8日(土) 9:30～11:00

場 所：東京工業大学（東京・目黒区）

西9号館2階 多目的デジタルホール

行 事 案 内

●第335回事業所見学会(本部)

テーマ：花王における品質保証活動の取り組みーよきモノづくりの核心ー
日 時：2008年9月24日(水)13:30～16:50
見学先：花王(株) 墨田事業所
定 員：30名
参加費：会 員 2,500円 非会員 3,500円
準会員 1,500円 一般学生 2,000円
※当日払い
申込締切：9月23日(火) 到着分
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第62回クオリティバブ(本部)

テーマ：サービスサイエンスによる企業変革の実践
ゲスト：諏訪良武氏
(ワクコンサルティング(株))
日 時：2008年10月3日(金)18:00～20:30
会 場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室
定 員：30名
参加費：会 員 3,000円 非会員 4,000円
準会員・一般学生 2,000円
(含軽食・当日払い)
詳 細：ホームページをご覧ください。
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第38回年次大会・東京工業大学(本部)

日 時：2008年11月8日(土)
9:30～11:00
通常総会／各賞授与式
11:10～12:00 新会長講演
大沼邦彦氏 (株)日立製作所)
13:00～18:00 研究発表会
18:15～19:45 懇親会

参加費：

研究発表会
会 員 4,000円(締切後4,500円)
非会員 7,000円(締切後7,500円)
準会員 2,000円 一般学生 3,000円
懇親会
会 員・非会員 4,000円
準会員・一般学生 2,000円

申込締切：2008年10月29日(水)

申込方法：

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第125回シンポジウム(本部)予告

テーマ：短期開発における品質のつくり込みーFMEAを活用した未然防止活動ー(仮題)
日 時：2008年12月9日(火)9:50～17:30
会 場：日本科学技術連盟

第38年度会費請求のお知らせ

第38年度（2008年10月1日～2009年9月30日）会費請求書を同封いたします。

郵便局自動引き落としを利用されている方には請求書を送付いたしておりません。10月27日に引き落としとなりますので、郵便口座の残高をご確認ください。

千駄ヶ谷本部 1号館3階講堂
申込方法：10月号品質誌に同封予定の参加申込書にて本部事務局までお申し込みください。

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
(財)日本科学技術連盟
東高円寺ビル内
(社)日本品質管理学会
TEL 03-5378-1506
FAX 03-5378-1507
E-mail: apply@jsqc.org
事務局携帯:090-9128-7979